

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 052	提案機関名 農業技術センター足柄地区事務所
要望問題名 茶クワシロカイガラムシの効果的な防除法について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 茶樹に対するクワシロカイガラムシの発生は、ウメ、キウイフルーツ等他の作物に対する発生と比較して、防除が難しく、被害程度が激しい特徴がある。南足柄市では、園の半分が枯れてしまい、植え替えを余儀なくされた園があるほか、新規に茶産地を育成している中井町、愛川町でも被害が広がり、思うよう収量が伸びない状況である。 現在、病虫害防除部と足柄地区事務普及指導課が協力し、発生予察及び効果的な防除方法の調査・検討を実施しているところであるが、より省力的、効果的な発生状況の把握と防除方法の検討が必要であり、他県の事例を集め、より実的な発生抑制方法の構築が望まれる。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	北相地区事務所研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	クワシロカイガラムシの防除については、府県等において研究成果が出されており、その効果が明らかとなっています。このため、これらの手法の組合せにより、効果的な防除が可能と考えられますので、普及指導員調査研究推進事業での対応が適当であると思われます。 なお、府県等における研究成果については、以下の事例がありますが、今後の新たな研究成果については、随時情報提供を行ってまいります。 京都府農林技術センター：クワシロカイガラムシ総合防除マニュアル 宮崎総農試・茶業支場：スプリンクラー散水によるクワシロカイガラムシの防除 (独)野菜茶研：送風式農薬散布機のクワシロカイガラムシ防除専用噴管と防除効果 また、クワシロカイガラムシに対しては、ピリプロキシフェン剤が顕著な効果を示しますが、メーカーの自主規制により地域限定での販売となっています。今後、メーカーに対して、県就農参入支援課と協力し、地域限定の解除に向けた要請を行ってまいります。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			